

2022 年度「政治学インターンシップ テーマ探究：東北被災地研修」実施報告書

9月15日～17日の日程で、皆様のご協力のもと、政治学インターンシップ（テーマ探究・東北被災地研修）を実施いたしました。昨年度はコロナ禍の影響でワークショップおよびオンライン研修の形式をとりましたので、現地を訪れるのは2年ぶりのことでした。

この科目は、東日本大震災の被災地（陸前高田市・南三陸町・石巻市・名取市など）を訪れ、実際に被災地の現状を見て知ることや、行政や地域の活動に関わる方々や被災された方々との意見交換を通して、震災当日や震災前の取り組み、復興計画と現状などをさまざまな角度から理解し、ときには比較検討をし、防災と復興について主体的に学ぶことを目的におこなわれています。

政治学科をはじめ他学部他学科（社会、現代経済）からも多くの大東文化大生が現地研修に取り組みました。参加学生は事前学習としてグループごとに担当地域の被災状況を調べ、質問リストを作成し、各々の興味関心をもって研修にのぞみました。また、バス移動中にも宮城教育大学の武田真一先生から被災以降の交通網や街並みの変化、自治体同士の関係など被災地を理解するうえで重要な見識を授けていただくことができました。現地ではさまざまな地域を実際に訪れ、震災遺構等を見学しました。視察先でお話をうかがった後には学生たちそれぞれの視点から質問をし、お話しくださった方と有意義な意見交換をおこなうことができました。



現在の「奇跡の一本松」



震災後に盛り土された高台から臨む防災対策庁舎



戸倉小から実際の避難経路を辿る①



戸倉小から実際の避難経路を辿る②



大川小においてお話をうかがう



慰霊碑の多くは実際の津波の高さ（東松島市）



「復興」まちづくりについてお話をうかがう



荒浜小学校震災遺構

研修の場では多くの方々から貴重なお話をうかがうことができ、参加学生のみならず教員にとっても非常に得難い経験となりました。また、被災体験のみならず職場での意思決定のあり方、公務員の職務、被災後の自治体単位での取り組みの反省や批判などさまざまな観点からお話をうかがえたことは、学生たちにとって防災や復興だけでなく自らの社会生活を問い直すうえでも多くの示唆を受けるものであったかと思います。今回の研修でお話をうかがった方々および宮城教育大学の武田真一先生にこの場を借りて改めてお礼申し上げます。